

平成20年度大学図書館職員短期研修

平成20年10月 7日(火) 京都大学会場

平成20年11月10日(月) 東京大学会場

大学図書館職員短期研修とは

国立情報学研究所 学術基盤推進部

基盤企画課 副課長(総括・研修チームリーダー)

小陳 左和子

大学図書館職員短期研修のサイト <http://www.nii.ac.jp/hrd/ja/librarian/>
研修に関する各種お問い合わせ先 edu@nii.ac.jp

大学図書館職員短期研修の歴史

- 昭和39(1964)年から
文部省が「大学図書館職員講習会」を開始
- 平成15(2003)年まで
主催：文部科学省
会場：東 - 東京大学
西 - 京都大学と大阪大学で毎年交互に開催
- 平成16(2004)年から
主催：国立情報学研究所、
東 - 東京大学附属図書館
西 - 京都大学附属図書館
- 平成19(2007)年から
「大学図書館職員短期研修」に名称変更

大学図書館職員短期研修の位置づけ

■ 目的

大学図書館等の活動を促進するため、大学図書館等の若手職員が、今後の図書館運営を担う要員となる上で必要な図書館業務の最新の知識を修得する。

■ 受講対象

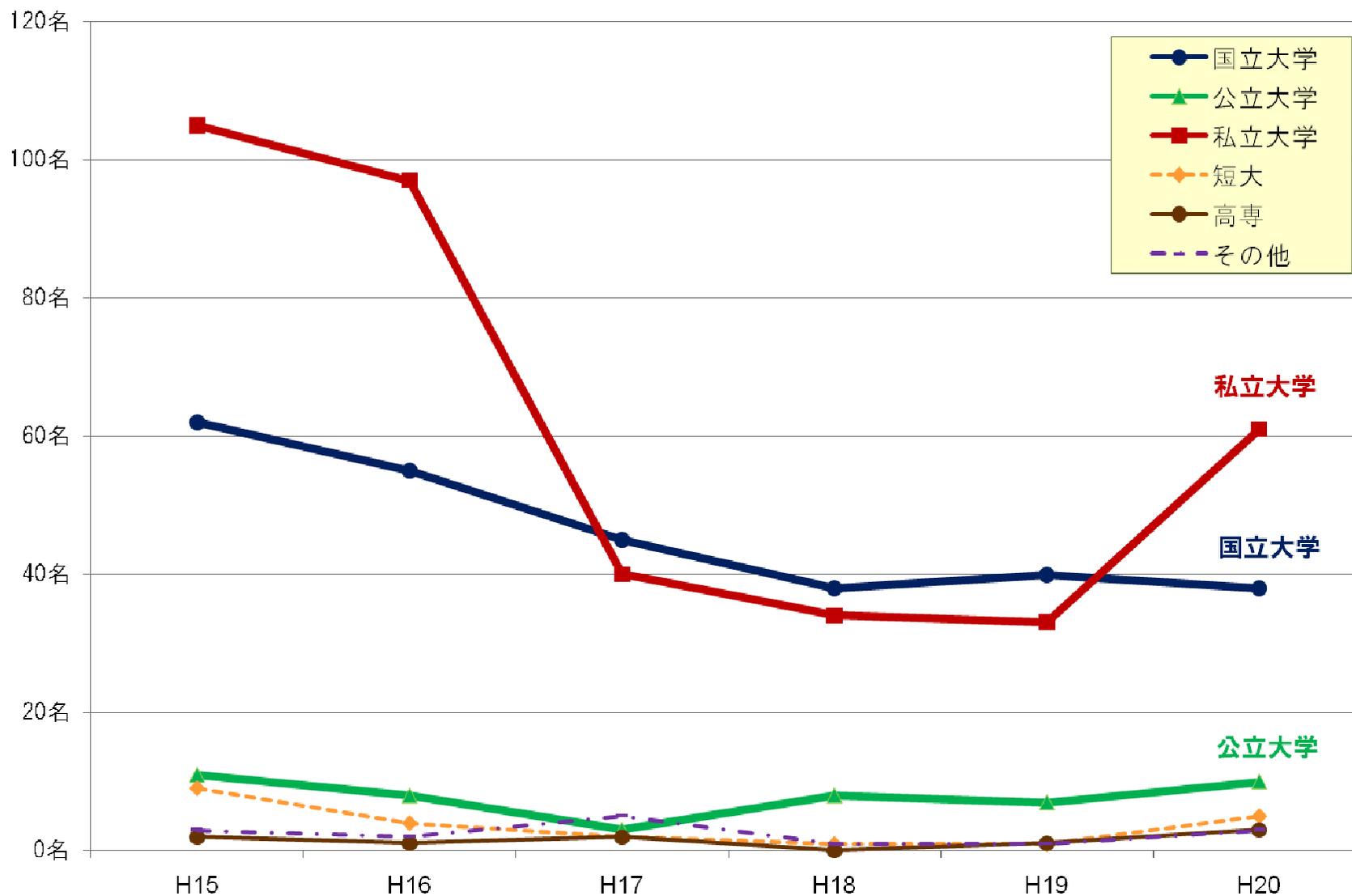
- 現在図書館等に勤務しており、受講後も一定期間の図書館勤務を予定している常勤的勤務形態の職員
- 35歳以下(応募状況により36～39歳も可とする場合がある)
- 図書館勤務年数が2年以上10年以下

■ 研修の位置づけ

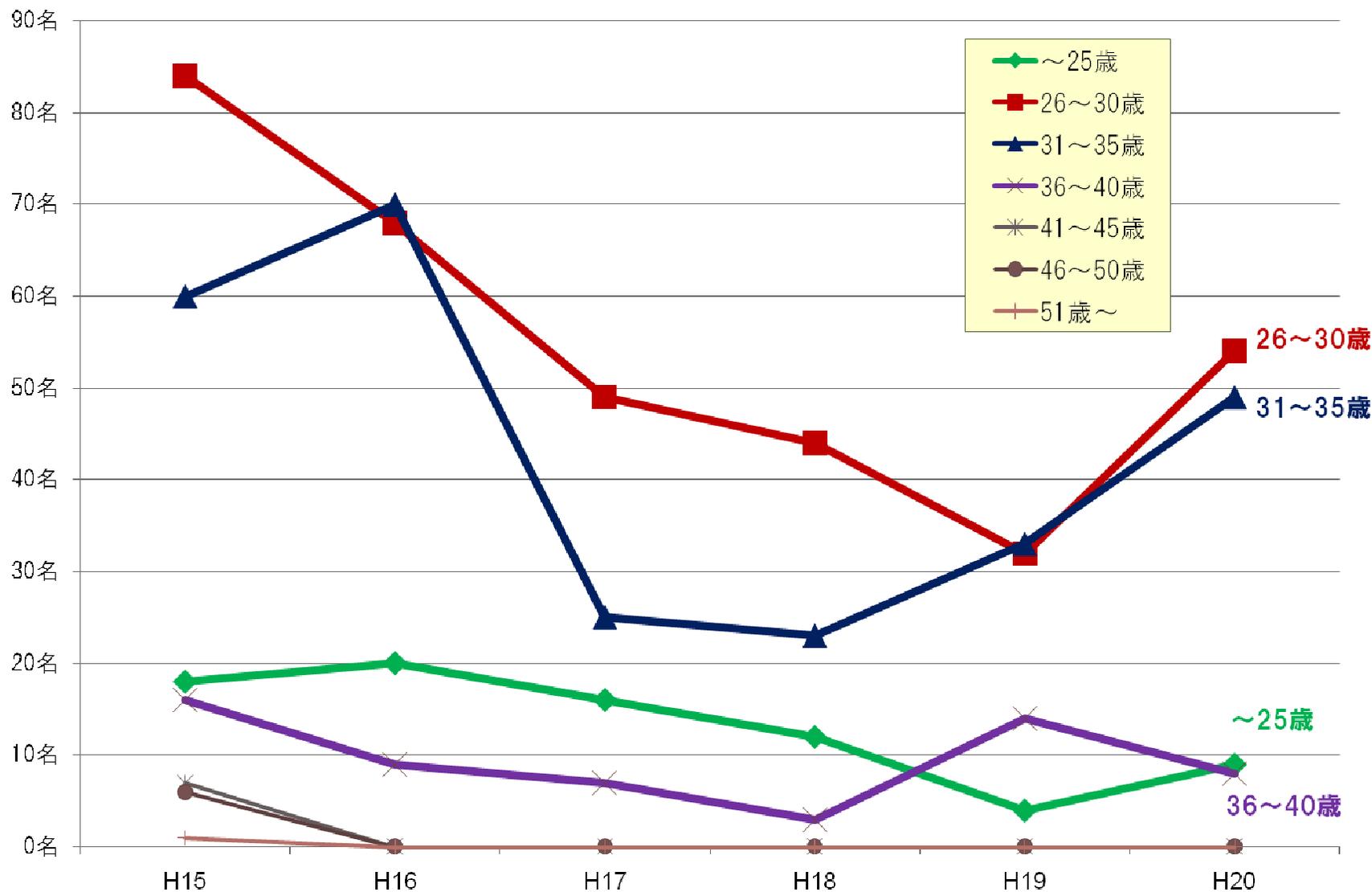
別紙1 「大学図書館関係の研修イメージ」

(国立大学図書館協会人材委員会 制作、NII 一部編集)

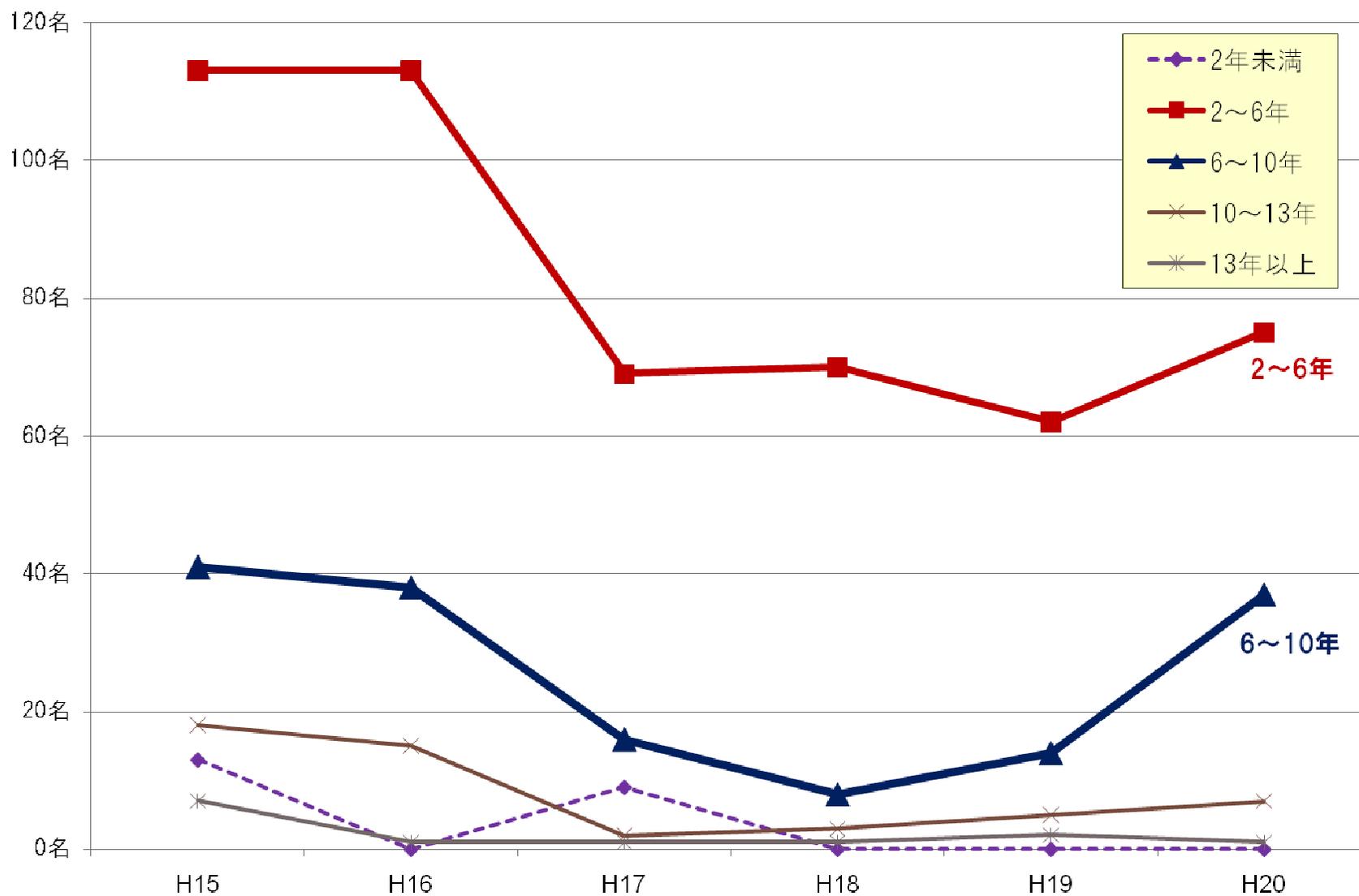
受講者の属性 ~ (1) 所属機関



受講者の属性 ~ (2) 年齢層



受講者の属性 ~ (3) 経験年数



カリキュラムの構成

業務区分(コンピテンシー)	講義名
経営管理	1-1) 大学図書館の現状と課題
	1-2) 海外研修経験から見た大学図書館経営
	4-2) 大学図書館職員のスキルアップ法
情報資源の管理	2-2) 目録の現在と未来
	3-1) 学術情報コミュニケーションの動向
	3-2) 図書館の資料構成と電子コンテンツ導入
	4-1) 戦略的資料保存を知る
情報サービスの運用	1-3) 大学図書館に「今」求められているもの
	2-1) 学術情報リテラシー教育入門
	2-3) 図書館業務の中の著作権
情報通信技術	3-3) 国立情報学研究所の学術コンテンツ事業戦略

別紙2

【参考】国立大学図書館協会人材委員会編「大学図書館が求める人材像について
- 大学図書館職員のコンピテンシー - (検討資料)」, 2007.3, p.5-6.

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/anul/j/projects/hr/jinzaizo1903.pdf>

受講に際して

- ◆ 受講者としての意気込みを見せてください。
 - ✓ 講師の熱意に応えてください。
 - ✓ 講師は質問を歓迎します。
 - ✓ 次の講師はあなたかもしれません。
 - ✓ グループ討議は積極的に取り組み、楽しみましょう。

- ◆ 集合研修は、あくまでもきっかけにすぎません。
 - ✓ これからの継続的なスキルアップへの指針と考えましょう。
 - ✓ ここで培った人的ネットワークを活用しましょう。